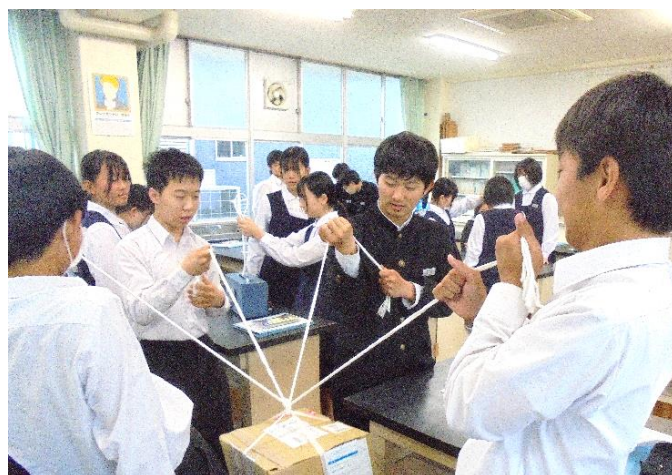


令和6年度 文部科学省・熊本県教育委員会指定
令和6年度 御船町教育委員会指定
人権教育研究指定校

研究主題

学校内での生徒の「居場所づくり」に関する教育実践の研究



〒861-3206 熊本県上益城郡御船町辺田見55番地

【TEL】 096(282)0002

【FAX】 096(282)1591

【URL】 <https://jh.higo.ed.jp/mifunejh/>

【E-mail】 mifunejh@tsubaki.higo.ed.jp

熊本県御船町立御船中学校

学校教育目標

ふるさとに誇りを持ち、夢の実現に向けて共に努力する生徒の育成
知-ガッ ～「ありがとう」が溢れる学校に～

研究主題

学校内での生徒の「居場所づくり」に関する教育実践の研究

【仮説1】

「人権が尊重される授業づくりの視点」に基づく授業改善を行い、生徒が安心して学べる授業づくりを実現すれば、生徒の「居場所づくり」になるだろう。（授業づくりの視点）

【仮説2】

生徒が他者に受け入れられている感覚や、自分が役に立っていると思える感覚を実感できる教科外活動を行えば、生徒の「居場所づくり」になるだろう。（教科外活動の視点）

【仮説3】

「ソーシャルボンド理論」に基づき、生徒に学校内での役割を意識させたり、努力した姿や活躍した姿を可視化したりする取組を行えば、生徒が学校生活と自分との結びつきを実感でき、「居場所づくり」になるだろう。（環境づくりの視点）

【取組1】

「授業づくり」の視点
①「人権が尊重される授業づくりの視点」による授業改善
②生徒参加型・参観者主体型の「御船中型授業研究会」の取組
③「Go to 授業キャンペーン」による授業研究の日常化

【取組2】

「教科外活動」の視点
①SHRの時間を活用した「ミニ・エクササイズ」
②系統的な構成的グループエンカウンター(SGE)の実践
③生徒の学校生活上の課題解決を図る生徒会活動

【取組3】

「環境づくり」の視点
①生徒の努力や活躍する姿が可視化できる掲示物の工夫
②生徒の努力や活躍する姿を相互評価する「私たちのMVP」活動
③「ソーシャルボンド理論」に基づく「居場所づくり」支援シートの活用

本校人権教育の目標

人権・同和問題を正しく認識し、身の回りの差別や社会の不合理・矛盾を見抜き、それをみんなの力で積極的に解決していこうと努力する生徒を育てる。

人権教育で育てる資質・能力と本年度の重点目標（【図1】参照）

知識的側面 工

価値的・態度的側面 シ

技能的側面 タ・チ

【図1】

人権教育を通じて育てたい資質・能力

自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動

自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度

人権に関する知的理解

関連

人権感覚

【知識的側面】

- ア 自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解
- イ 人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識
- ウ 憲法や関係する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識
- エ 自尊心・自己開示・偏見など、人権課題の解決に必要な概念に関する知識
- オ 人権を支援し、擁護するために活動している国内外の機関等についての知識 等

【価値的・態度的側面】

- カ 人間の尊厳、自己価値及び他者の価値を感知する感覚
- キ 自己についての肯定的態度
- ク 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度
- ケ 多様性に対する開かれた心と肯定的評価
- コ 正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度
- サ 人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度
- シ 人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意思や態度
- ス 社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度 等

【技能的側面】

- セ 人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能
- ソ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性
- タ 能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能
- チ 他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能
- ツ 人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能
- テ 対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能
- ト 複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能 等

関連

関連

関連

全ての関係者の人権が尊重されている教育の場としての学校・学級

【参考】人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕

研究組織図

研究推進委員会

【校長、教頭、主幹教諭、教務主任、養護教諭、生徒指導主事、研究主任、人権教育担当】

授業づくり部会
チーフ：研究主任

教科外活動部会
チーフ：生徒指導主事

環境づくり部会
チーフ：人権教育主任
養護教諭

授業づくり部会の取組

【取組１】① 「人権が尊重される授業づくりの視点」による授業改善

本校が目指す【人権が尊重される授業】とは、

「生徒が共感的な人間関係を深めながら学びに向かい、『自分は授業の主体として大切にされている』と実感できるような、一人一人の学ぶ権利が保障されている授業」

(１) 「人権が尊重される授業づくりの視点」の整理（資料１）

「人権が尊重される授業」を目指すために、そうした授業づくりの視点およびポイントの例を整理し、授業改善に生かすようにしている。授業づくりの視点は、文部科学省「人権教育の指導方法の在り方について〔第三次とりまとめ〕」等に基づき、「視点１ 自己存在感を持たせる支援の工夫」、「視点２ 共感的人間関係を育成する支援の工夫」、「視点３ 自己選択・決定の場の設定の工夫」とした。また、「ポイントの例」については、本校での授業研究を通して見出されたものを明記している。

(２) 学習構想案への位置付け

学習構想案に、「人権が尊重される授業づくりの視点」を明記し、授業づくりを行った。

まず、本単元あるいは本時の授業において、「人権が尊重される授業づくりの視点」にそって、授業者がどのように授業を工夫し、構想しているかを具体的に記述するようにした。本校では、授業者の主体性や教科の特性、あるいは生徒の実態等に配慮し、個別の授業で行う具体的な手立てを全て統一するのでは

なく、「人権が尊重される授業づくりの視点」に基づき、授業者が工夫して設定することとしている。そうすることで、各教員が研究の当事者として実践を行っていくことをねらっている。

３ 本校の研究主題との関連

学校内での生徒の「居場所づくり」に関する教育実践の研究

【仮説１】「人権が尊重される授業づくりの視点」に基づく授業改善を行い、生徒が安心して学べる授業づくりを実現すれば、生徒の「居場所づくり」になるだろう。

<研究仮説につながる実践上の工夫>

視点１：自己存在感を持たせる支援の工夫

○実験を行うとき、ひとりひとりの役割分担を明確にする。

視点２：共感的人間関係を育成する支援の工夫

○アトラクションモデルの設定を改善する際に、相手に伝える場を設定する。

視点３：自己選択・決定の場の設定の工夫

○各班で、アトラクションモデルの設計の条件を改善できる場を設定する。

また、展開案には、授業中のどの場面で、どのように「人権が尊重される授業づくりの視点」を踏まえているのかを明記することとした。普段何気なく行っている取組や言葉かけでも、こうして言語化することで、より意識的に実践ができるような工夫となっている。これは授業を参観する教員にとっても、授業者が何を意識して手立てを行い、そのような手立てによって、生徒がどんな反応を示すのか等、授業を参観する視点としても活用することができる。

導入	5分	【第2時（本時）】 8 前時の内容をおさえる	視点1 (2) * 検証実験を行う。 ○ 役割分担を明確にし、スムーズに実験の準備が進むようにする * 結果を分析し、解釈する。 ○ 再現性がある方法について発表する。 【評価規準】思 ○ 高得点エリアに台車を入れるための条件を、今までの学習を活用して考察し説明することができている。（記述分析） 視点2 (1) (2) ○ 安心して発表できるような言葉かけをする。 ○ 台車が高得点エリアに入るために、アトラクションモデルの出発点の高さや台車の質量を調整することを確認する。
	15分	9 課題解決に向けて検証実験をする (1) 仮説の確認をする (2) 実験計画②を確認する (3) 観察・実験を行う 実験計画に沿って実施する必要に応じて工夫改善する (4) 班で考察する 「自分たちのベストの条件をホワイトボードでまとめてください」 (5) 他の班と意見交流する (6) 仮説が検証できたことから、課題に対してどんなことが言えるのかを全体で共有する	
展開	10分	【まとめ】アトラクションのモデルで高得点をねらうために、台車が出発する高さや台車の質量で力学的エネルギーの総量を調整するとよい。	
	5分	10 学習のまとめを行う。	

【取組1】② 生徒参加型・参観者主体型の「御船中型授業研究会」の取組

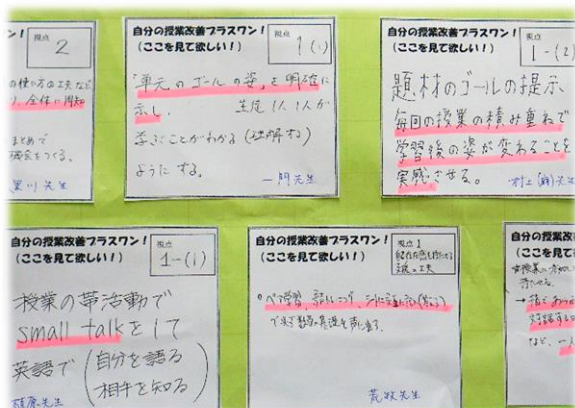


本校の授業研究会は、大きく2点の特色がある。

1点目は、授業者を尊重し、教員の指導技術や教え方ではなく、「生徒の学びの姿」に着目して授業を参観する点である。「生徒は授業をどのように経験するのか」、「生徒は授業の中で何をどのように学んでいくのか」を細かに観察し、より生徒の学びを保障するにはどうすればよいかを協働で語り合う、「参観者主体型」の授業研究会のあり方を追究している。

2点目は、授業研究会に、授業の当事者である生徒も参加し、授業についてのフィードバックを行う「生徒参加型」という点である。授業の主体が生徒ならば、授業の成果の分析にも生徒の声を聞くべきである。この2点の特徴を踏まえて、「生徒に学ぶ」というスタンスで行う授業研究会を、「御船中型授業研究会」としている。

【取組1】③ 「Go to 授業キャンペーン」による授業研究の日常化



授業研究を、年間数回の単発で行うのではなく、日常的に「人権が尊重される授業づくりの視点」に基づいた実践がなされ、各教員が省察していくことが大切だと考えた。そこで、特定の期間に、「Go to 授業キャンペーン」と称して、教員が小グループをつくり、授業を相互に参観する取組を行っている。参観に当たっては、②のように、「生徒の学びの姿」に着目して授業を参観するようにしている。こうして、自身が授業者となったときに、日常的に「生徒の学びの姿」を見取ることができるようにする力量形成の機会になると捉えている。

また、各教員が「授業改善プラスワン」として、人権が尊重される授業づくりについての自分の授業のアピールポイントを設定し、職員室に掲示することで、互いの授業に学び合う機会にもしている。

教科外活動部会の取組

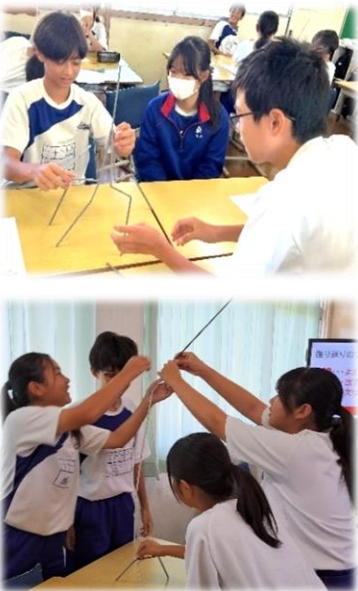
【取組2】① SHRの時間を活用した「ミニ・エクササイズ」



生徒同士の人間関係づくり、コミュニケーション能力向上を目的として、毎日SHRの時間を活用し「ミニ・エクササイズ」に取り組んでいる。

写真のペアトークでは二者択一を行っており、自分の意見を話したり、他者の意見を肯定的に受け入れたりすることで、朝から楽しい時間を友達と過ごし、より良い関係づくりができています。

【取組2】② 系統的な構成的グループエンカウンター(SGE)の実践



他者との繋がりを強めるために、月1回の活動に取り組んでいる。自分の意見を伝え、他者の意見を受け入れる経験をたくさん積むことで「自分の意見を出して良い」「自分の話を聞いてくれる」と心理的安全性が高まっている。

写真の「ストロータワー」での振り返りには「班のみんなで協力して、たくさんのコミュニケーションを取ることが大事だとわかりました。」「お互いにサポートし合い、コミュニケーションを取りながら、こんな風にしたらいいねとアドバイスし合えるといいなと思いました。」など、他者との繋がりに関するものが多くあり、効果が出ている。

【取組2】③ 生徒の学校生活上の課題解決を図る生徒会活動



学校生活を送るなかで感じる課題や困り感を解決するために、代議員や体育大会応援リーダー等が生徒会活動を企画し、実施している。また、活動前と活動後には生徒主体の学年集会を開き、主旨の説明や振り返りを行っている。

写真は「3分前着席」を生徒が呼びかけている様子である。企画したり活動したりする中で「自分はこの活動でみんな（学年）の役に立っている」と自己存在感を感じることができている。

環境づくり部会の取組

【取組3】① 生徒の努力や活躍する姿が可視化できる掲示物の工夫

生徒昇降口にモニターを設置し、生徒が努力する姿や笑顔で話し合う姿の画像を毎日更新し、互いの良さを認め合うことができる取組を行っている。生徒が学校や教室が居場所であることを認識でき、結びつきを感じる環境づくりの工夫をしている。

生徒からは、「各クラスの様子が見られて安心した」や「全学年の楽しそうな様子や真剣に取り組んでいる姿が見られるからうれしい」等の意見が聞かれた。



【取組3】② 生徒の努力や活躍する姿を相互評価する「私たちのMVP」活動

人権委員会が中心となり、毎年行事ごとに「X さんからの手紙」や「サンクスカード」の取組を実施している。この活動を通し、生徒が主体的に互いの良さを認め合い、感謝の言葉を伝え合うことができるので、学級の絆が深まっていくことを感じられる。自尊感情や他者意識を一層高めるために、常時活動として「私たちのMVP」と題し、互いに日頃の頑張りの良さを伝え合う活動を行っている。毎週金曜日に行うことで、「また来週もこの仲間たちと頑張ろう」と前向きな姿勢で1週間を締めくくることができている。



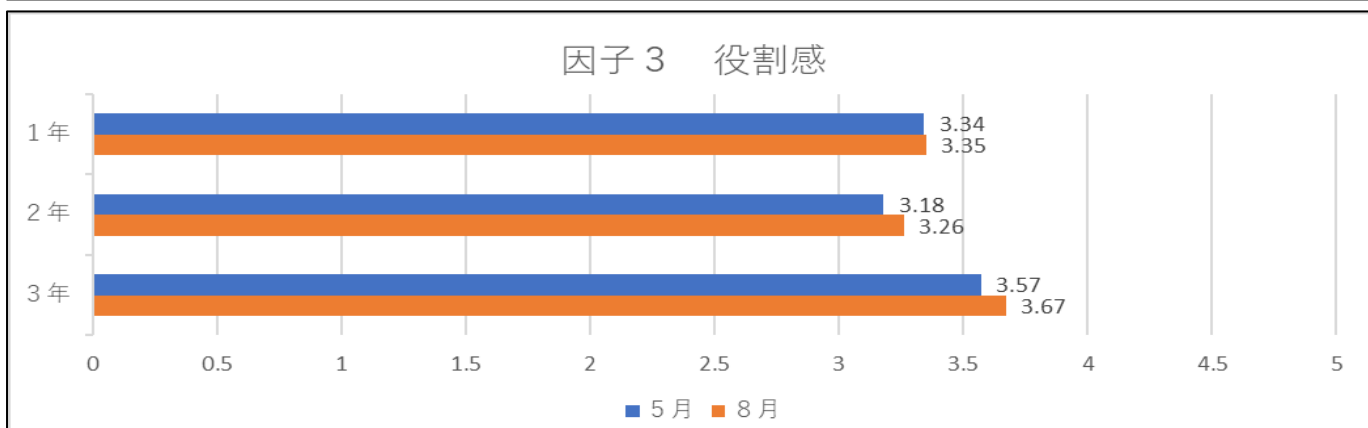
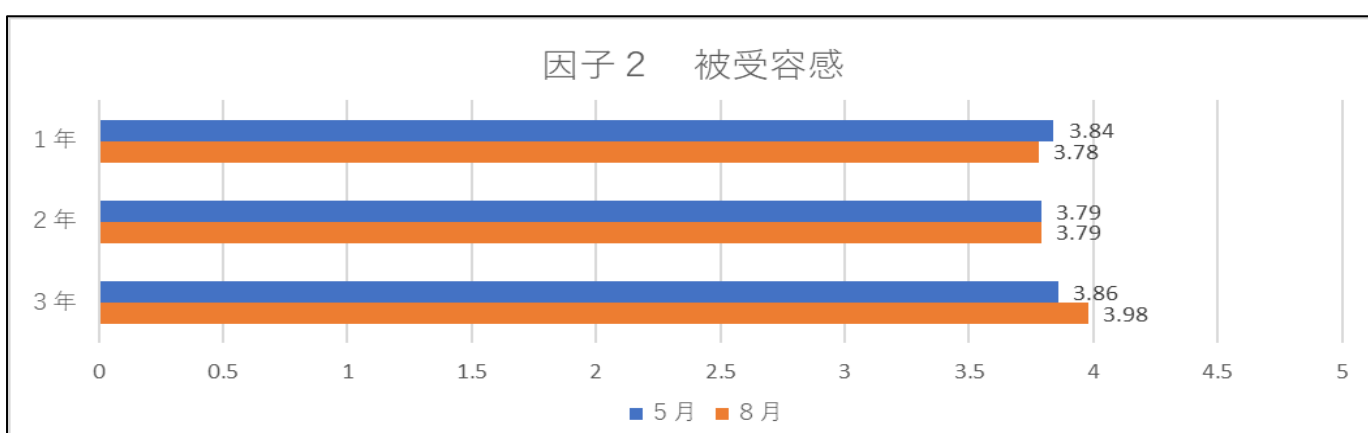
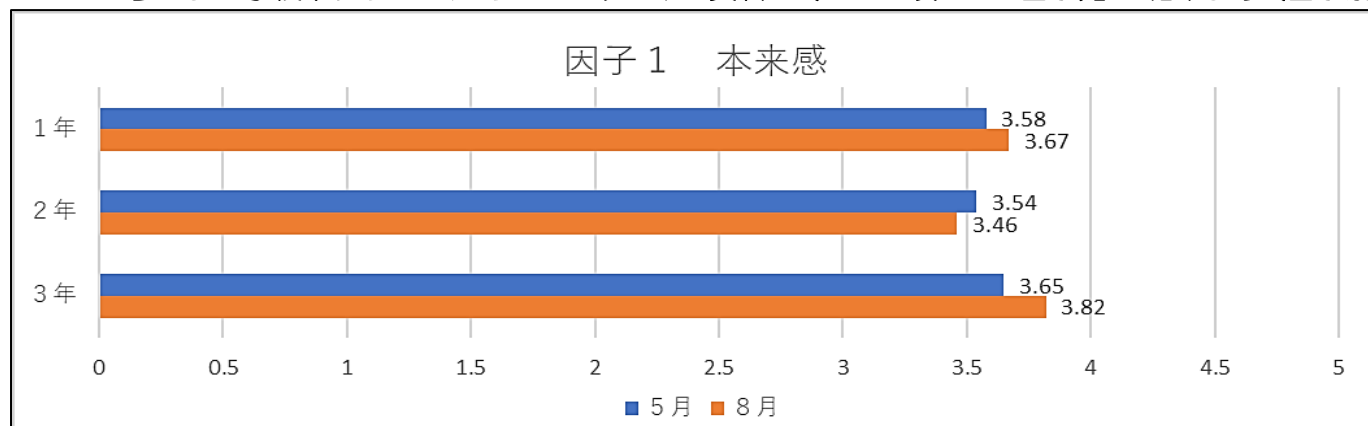
【取組3】③ 「ソーシャルボンド理論（資料2）」に基づく「居場所づくり」支援シートの活用

欠席が増えてきた生徒に対し、「ソーシャルボンド理論」に基づいて居場所づくりに必要な支援について考えるシートを作成した。居場所づくりの視点として、「愛着」では生徒同士の交流や生徒と職員の関わりを、「投資」では生徒自身の成長を感じる場をつくること、「巻き込み」では学校行事や学級での役割を持たせる支援、「信念」では、学校は成長する場であることからつなぐ機会を見つけ出す支援を考えた。対応した支援の仕方については、校内研修で共有した。

達成目標	1学期	授業に少しずつ参加する。				
	2学期	生徒の興味・関心のある話を聞かせてもらう。				
	3学期					
支援の視点	愛着	投資	巻き込み	信念	その他	
	生徒同士や生徒と教師の交流の機会があり、つながりを持つ	学校に行くとい自分が成長したと感じられるようになる	学校や学級の中で役割がある	学校は、成長のために不可欠な場と感じられる	その他	
		項目	内容	評価	具体・加筆	
	1学期	愛	教員との関わりを増やす	○	授業中は発言される機会を通常の半分に留めた。しかし、他の生徒が話さなかったり、発言が正確でなかったり、発言が面白くないなど、関わりが浅かった。	
		言	学校に何らかの役割がある	△	授業中に発言する機会を多く与えた。しかし、他の生徒が話さなかったり、発言が正確でなかったり、発言が面白くないなど、関わりが浅かった。	
	9月	言	学校に何らかの役割がある	○	吹奏楽部で頑張っている姿が目に付いていたが、9月給食会の活動が上手だったことを聞いた。笑顔で話さるにありがきよござです。ますます広げてくれた。吹奏用を教室用いてみよふに思った。	
	10月					
	11月					
	12月					
	1月					
	2月					
	3月					
振り返り	欠席は6日で少ないが欠席が55時間と多いようだ。吹奏楽部の練習には参加できている。これからも授業に入りやすい工夫したり、いろいろ話したりしてみたい。					

研究の成果と課題

「いごちのよい学校やクラスのためのアンケート：資料3（全19項目・3因子）」の結果より（因子別）



【成果と課題】

実践の成果と課題を分析するために、「いごちのよい学校やクラスのためのアンケート（全19項目・3因子）」を実施し、因子別に分析した。

成果として、3学年とも、「役割感」の因子について数値の上昇が見られる。生徒の努力や活躍する姿を可視化する取組の影響と考えられる。

課題として、学年にもよるが「本来感」や「被受容感」の因子に数値の低下が見られる。今後の実践にあたっては、生徒に学校や学級の中でお互いに活躍の場を与え、自分の良さや役割を実感することができるようにするだけでなく、「本来の自分を素直に出すことができる（本来感）」ことや、「自分が他者に受け入れられていると実感できる（被受容感）」ことに繋がる取組を行っていくことが求められる。